
『God The Road』

絶望先生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『God The Road』

【Nコード】

N4191T

【作者名】

絶望先生

【あらすじ】

表の世界 裏の世界に分かれているこの世界

表は人間の世界 裏は悪魔の世界

不良高校生の東夷（とういつ）一氏（いつし）は

ある日、女ハンターセルシィと出会い、悪魔退治をしないと叫ばれる。

そして、悪魔に殺されかけたとき、自分の奥に眠る

神の力 阿修羅が目覚め

そしてその女ハンターとともに

悪魔退治をしていくとゆう
振り回される高校生の物語

ゴットナツクル……あれえ……（前書き）

えーと

申し訳ありません

ゴットナックル……あれえ……

大変ご迷惑をおかけします

今回『God The Road』

は不具合があつたため

小説を削除し

新しい『God The Road』

を製作します

大変ご迷惑をおかけしますが

これからも『God The Road』を

見ていてください

宜しくお願いします

作、絶望先生より

えー、ここに書きます

あらすじを大きく変更します

高校生が

悪魔たちと戦う物語

その高校生の力は神の力

聖なる阿修羅

この力で 悪魔と戦う物語

ただし!!!

一つだけお願いします

他の小説からパクリはしないので

よろしくおねがいします

ゴットナックル……あれえ……（後書き）

一日でも早く

更新します

第貳話 ハンターさん登場（前書き）

足に釘がアアアアアアアア

第貳話 ハンターさん登場

小説本文 ここは、平凡な
8階建てのマンション

ピピピピピピ
ピピピピピピ

いつもの目覚ましの音になる

ゴン

寝ぼけているのか…

最近、妙な音がずっと聞こえてくるのだが…

気のせいかな？

そう思いながら、洗面台で顔を洗う俺
するとさらに、

ゴンゴン

とてつもなく、やかましい音だな
さらに聞くと…

コンカツコンカツトン

コンカツコンカツトンって何ですか！！！！！！

婚活ですかア!?

…落ち着け

ことに応じて、心を落ち着かせるんだ…

いや…まてよ…

ここは、いつそのこと音のなる音に…

そして、向かったのが、空き部屋

俺はドキドキしながら、ドアノブを握る

すると…

「コンカツコンカツコンカツトントン」

……………

俺は言葉もせず、ただ不法侵入したナイスバディの女性を見るだけであつた…

しばらくして、俺は決意する…

『この部屋から不法侵入者を追い出そうと』

そして、脅しという木刀を持ってきたが

その瞬間

俺の頭に、銀色のリボルバーがついた…

って、ちよつとまで

おいおいおいおいおいおいおいおいおいおい
おいおいおい！！！！

まてまてまて、まだ俺人生楽しみてえし！！！！

ちよつと！！！！不法侵入者！！！！何銃構えてんだよ！！！！

そして、俺は慌て慌てた……

そして、不法侵入者の女性のナイスボディさんが言った：

「私と、悪魔退治しなさい！！！」

ええええええええええ！！！！！！！！！！

しばらく間があいた……

気づくと、俺は女性といっしょに

ちやぶ台の上に座りながら会話の準備が整ってた

口をまず最初に開く俺

「あんた、何者ですか？とゆうか悪魔退治って…謎めいてるんですか」

「ああ、気にしない気にしない」

気にするわ！！！！ボケ！！！！

何この人、めっちゃ腹立つんですけど……！！！！

イライラをおさえながら、また質問する俺

「あの、本当に正体教えてください、警察に言いますよ?」

「べつに言っていていいわよ」

言っていていいのかーい!!!

なんですか、この人、まじすげー冷静なんですけども…

やばいわ…話の内容についていけねーや…

「私は、セルシィ、よろしくね」

「…俺は東夷一氏…」

つてなにいつてんだあー!!!!!!俺!!!!!!

何自己紹介に入ってたんだよ!!!!

なんで見知らぬ人に名前教えてんだよ!!!!

馬鹿か!?!俺は馬鹿なのか!?!

そして、セルシィさんが答える

「私はハンターとして、この世界にやってきたのよ」

「悪魔退治のためにね」

俺が口を開く

「えっと、何?つまり一般人の俺があんたの手伝いをしろとな?」

「そうゆうことよ」

…

「私、ここに居候してもいい?」

「帰ってくれ、お引きとりねがおうか」

カチャ…

またしても、銀色のリボルバーが

「頭ぶち抜かれたい？」

…はいはい

分かりました

居候でもしてつてくれよ…

「じゃあ、今からよろしくね、一氏君」

「は…はあ…」

あ…

ちよつとまで…

会話は終わったものの…

時計、時計

A M 8 : 1 0

ギャー！！！！！！！！！！

ちよつちよつちよつちよつちよ！！！！！！

めつちや大遅刻だよ！！！！！！

「おい、あんたのせいで遅刻じゃねえかよ！！！！！！」

「別に知らないわよ」

なんつー無責任な…

もー、そんなことよりも

飯と時間を俺にくれ!!!

神様アアアアア!!!

もういい!!! 飯なんて食わずに登校だ!!!

「おい!!! セルシィさんよ!!!!!! 絶対俺の家荒らすなよ!!!!!!」

「はいはい…」

ぐおおおおおおおお

「いつてきまーす!!!!!!」

こうして

俺の高校生活&悪魔退治が始まる…

第貳話

終わり！！！！！！

第貳話 ハンターさん登場（後書き）

青のエクソシスト見てますかー
おもしろいですよねー

…

ごめんなさい

第？話 体の奥に眠る魔人（前書き）

・
・
・

大変ですね

第？話 体の奥に眠る魔人

今日は土曜日だ

ピピピ

ピピピ

目覚ましになる

もう朝か、と思いながら目を開けてみた
その目の前には

サイズの分らないくらいの巨乳が俺の顔を苦しめていた

おぼろしやああああああ！！！！

俺は女性に弱く

軽いパンチラですら、鼻血を出すほどの弱さだ・・・

しばらくして、間が開いた後

俺は大量のティッシュを消費し

血を必死でとめていながら

セルシイとちゃぶ台のところでスタンバイしていた

俺が口を開く

「だいたいなんだが、そもそも何故俺なんだ？」

「他にいくらでも俺以外にできるやついるだろ」

「いやーじゃない、それにいい男だし…」

グニユ

俺の顔に胸があたる

ズババババババババババ
さらに俺は鼻血を大量にぶっ放した

数分後だろうか

俺は突然と叩き起こされた

「悪魔が現れたわ!」

「何イ!？」

俺は突然の状況にでたのがこの言葉だった

「いますぐ行くわよ!」

「いくつてちょ、どこにだよ」

「いいから、着いてきて」

「ええ……つてちょ!ここ8階だぞ!…ベランダからだと危ねえ…
…つて」

なれたように、マンションを降りていった
(これが…本物のハンターの力?)

俺は慌てて言うとおりにして、木刀をもっていき
追っついていこうとしたが

早すぎて何処いったんだ……
と思いながらも俺は
マンションを降り、すぐ近くの公園を探してみた

(ここにはいないか……)
と思って俺はハンターさんに任せようとした
と思ったとき

「聞こえる?一氏君」

「え…どうやって話してるんだ?」

「それはいいから、学校に来て…キヤアアア!」

「おい、ちょ…プツン…っち、何なんだよ!!」

俺は木刀を持って、いそいで学校に向かった

そして学校に着いたが
そこは、とんでもない姿だった

「な…なんつうでかさだよ…これが悪魔か…」

数10メートルだろうか

悪魔の体は校舎を多く抜かしていた

「一氏君！！！助けて！！！」

向こうがわで、セルシイの声が聞こえる

町のやつらはこんなでかい奴が見えないのか！？

警察は！？

………

嘘だろ？

こんなやつを倒せと？

「一氏君、何でもいいから攻撃して！！！」

「無茶言っんじゃないやねえ！俺は一般民だから無理に決まって……」

悪魔の足が俺の真上にくる

「危ない！！！」

「うああああああ！！！！」

何があっただんだ……

そう思いながら目を開けてみる

その目の前には

セルシイが体を張って俺を守り

悪魔の足の爪がセルシイの体を貫いていた

俺の顔にセルシイの血がつく

悪魔が突然口を開いた

「ふっはははは、ゴミがゴミをかばったああ？ははははは」

……ざけんじゃねえ・・・

「お？」

「ざけんじゃねえ！！」

俺は無謀だとわかってながらも
悪魔と戦ったが

腹にでかい拳を入れられ
死んだと思ったが
奇跡的に生きていた

「死ね…ゴミが！」

もうだめだ…

諦めかけた時だ

その時のことは覚えてはいないが

自分の背中だろうか

阿修羅のような腕が出てきた

そして、俺が持っていた木刀が
剣に変わって言った

「な…これは…」

「何だと！？こんなゴミが魔法をだと！？」

「…おい、ゴミカス悪魔」

「さっきの借り、全部返してやるぜ！！！」

俺はその剣で悪魔をぶった切ってやった

「ぐあああああああああ」

悪魔が消えてなくなった後
虹色の雨が降ってきた

俺はセルシイのところへ行こうとしたが
セルシイの傷はもうなくなっていた

「この雨は何なんだ？」

「これは…レインボーレイン」

「悪魔は人の生命を食として、体のた体内に入れておくの」

「だから、生命の力があるから、私の体は治ってるわけ…」

「そうか…ありがとう…」

俺は、セルシイに借りが出来てしまった
何て情けねえんだと
思いながらも俺だった

が

「おあびに、キス…」

ブシャアアアアアアアア

俺はまたさらに鼻血をだし

そのまますぐに倒れてしまい
その後、病院で入院することになってしまった

終わり！！！！

第？話 体の奥に眠る魔人（後書き）

長くて分からなかったとおもいますが
その辺はご勘弁を…

でわ

第？話 騎士団本部 前編（前書き）

えー

？話の戦いは・・・嘘？

第？話 騎士団本部 前編

「ってそんなわけあるかあ！！！！！！！！」

ガバ！！！！

あれ？ただの夢…か

よかったよかった、夢とゆうものでよかったよ（笑）

トンカツトンカツトンカツトン

…ってまたかい！！！！

どんだけやればいいんだよ！！！！

とゆうか、何かこんな感じ

ずっと前に…何だっけ？

ハンターさんがきて2週間がたつな…
その日は…何か懐かしい感じだった…

く ■ 時間をさかのぼる ■ く

「なあ、セルシィお前本当に何者？」

「だから、ハンターだつて」

「そのハンターやらを教えるよ」

俺はこの言葉を何度も繰り返している

「私はだから悪魔を退治する悪魔なの!!」

「だから!!!!!!そうゆうのじゃなくて!!!!!!どっから着たのかそうゆうのだよ!!!!!!」

こんな話もどこかで…

こいつと話していると薄れている記憶が…

まあ…深く考えなくてもいいか…

「で、そのハンターさんは悪魔だけしか退治しないのか?」

「…そんなこと言うなら、私たちの騎士団のところに来ればいいよ」

「はあ!?!馬鹿言つな、誰がなんどこにいくわけ…」

「また鼻血出したい?今度はもっとハレンチなことで」

ブッハアアアア!!!!!!

想像しただけで鼻血が…

「さあ、どうするの?」

(っち、行くしかないか…命の危険性もあるし…)

「で、どうやって」

「この鍵を使うの、下に差し込んでいくんだ」

「え？どうやって」

ザクー！

「え…ちょおおおおお！！！！！！」

床にもろ鍵ささっちゃってるんだけも！！！！

「さて、いくよ」

「お…おっ…」

なんちゅうやつだよ……

第？話 騎士団本部 中篇（前書き）

ははははははh

一回msってしまったよ…

おかげで10分もタイムロス…

第？話 騎士団本部 中篇

「さあ、ここが騎士団の町よ」

「うああ…でつけえ…」

すげえ…こんなに広いんだ……

「さて…行くわよー氏君」

「ってどこに？」

「もちろん、本部にいる魔王シグナスに会いに行くためよ」

「…へ？いまなんと？」

「だから魔王シグナスよ」

…魔王ですか

それはまた大それたことを…

「帰ります」

ガシ！！

「待ちなさい…」

ッグ！！何っー力だよおいおい！！！！

「さてさて行きましょう」

ぢくしょう…うう…

〵 ■ 騎士団本部の中 ■ 〵

うう、なぜ俺がこんなことに…

「私、ハンターのセルシィ・アルバーンです」

関所の管理人「うむ…よろしい」

…え

わざわざ本名言うのか？

「ではついてきてください」

そして、俺たちは城の中に入り

魔王シグナスのところに行くのであった…

「魔王シグナスさま、セルシィです」

どんなやつなんだ？

一体……魔王とかいつていたが……

「おっす、おら魔王シグナス」

.....

はい？

「いやいや、おっすじゃなくてシグナスさま」

あ、魔王取った

「で、その少年が例の？」

「はい……」

え？例つて何？

「あの、ストーンゴーレムを一人で倒したと……」

A A A ! ! ! !
え え え え え え え A A A A A A A A A A A A

じゃあ、あの夢は…現実！？

第？話 騎士団本部 中篇（後書き）

いつそがすうー

第？話 騎士団本部 後編（前書き）

？

第？話 騎士団本部 後編

「でー、騎士団とは何をするのだ？まおう何とかさん」

「騎士団は人助けをするものといったほうが簡単だろう」

人助けねー

簡単なやつしか俺はやりたくないが

そう思いながら聞く東夷である

「セルシイ、この少年を騎士団に入れるとゆうことにした！！」

「分かりましたが…私にどうしろと…」

「こいつと一緒に組め」

「っは…」

えー！！！！

ちよつと俺はまだ入るとは…

なんとも哀れな少年、東夷である

「で、本題に戻るが、騎士団の仕事についてだ」

「騎士団とはそもそも魔物退治が最も大きな仕事だ」

「そのためお前には戦うために職業を決めてもらっ」

「職業？」

ここからは作者みずから説明をします

ここ騎士団の職業は3つあります

1つはナイト

2つはハンター

3つは格闘家

この3つが職業です

ナイトは、この3つのうちの中で最も力が強く
さまざまな強力な武器を使いこなし
危ないときは味方をかばうなど

頼りになる職業です

例えるなら

一氏の能力の阿修羅は
戦士に適しております

ハンターは、銃火器などを使い
遠距離からの攻撃が出来ます

そのうえ、回復魔法などが使える
ピンチの時に助けてくれる職業です
セルシィが使っているリボルバーも
銃火器の一つになります

格闘家は、ナイトは違う面

素早い攻撃で相手を攻撃します

接近戦ではかなりの力を持っています

以上がある程度の職業の内容です

続いて、この騎士団には称号があり

その称号のランクが上がればあがるほど

大きな仕事を受けれるのが

この騎士団のルールみたいなものですねー

以上!!!!

「そうかそうか、大体よく分かった、そして俺は入らないことにしておこう」

そう、そして夢とゆう言葉にしておけ

「そういえば、君は過去に大きな悲劇があったよね？」

「君は親を殺されたんだろ??」

(!!!!!!!!!!)

東夷の頭に一つの感情が思い浮かぶ…

「おい、魔王さま、それってその犯人知ってるのか？」

「つぶ、だけどいいのか、後悔するかもな？」

「いいだろう…俺が騎士団に入ってやるよ!!!!!!!!!!」

ついに言っちゃった俺

だけどいままで心の中で消えていた感情が
復讐へと変わっていく

そして、ここから本当の物語の始まりだ!!!!!!

第？話 騎士団本部 後編（後書き）

ありがとうございます^^

作者雑談 未公開キャラなどの紹介（前書き）

えっと

今回はキャラについて説明します

作者雑談 未公開キャラなどの紹介

皆さん！！

あはっようございますかな？

朝の更新になります。

今回は前書きにも書いたように
キャラ紹介をしていきます

まずは東夷^{とうい} 一氏^{いつし}

目は赤く

髪は右側が大きく

そんな特徴をした不良高校生です

不良とはいえ

頭はそれなりによく

誰かが困っていると助けるが

自分になにか言われると

すぐカツとして、けんかを起こしてしまう

武器は刀などを使う

職業的にはナイトですね

能力は阿修羅

阿修羅の一部の能力を

一氏は使います

続いてセルシィ

青目の

金髪のポニーテイル

そのうえボンキュッボン！！！！

すいませんでした・・・

細かいことがきらいで

そのうえ少しめんどくさがり

だが、大事なときだけは

しっかりと仕事をこなす

武器はリボルバーを使い

職業はハンターです

能力は不明（まだ完成しておりませ）

続いて、未公開キャラです

風呂威ふうり 慶介けいすけ

頭がよく

不良ではないのだが

けんかは一氏よりも強く

素手では右に出るものがない…

武器はグローブです
職業は格闘家です

こちらも能力は不明です

次の内容は、表の世界と裏の世界ですね

表の世界は一氏たちのいる世界です

この世界は、僕たちのリアル世界とは大きく違い
化学、魔法

その二つが表の世界です

裏の世界は、騎士団本部がある世界です

簡単に言くと、騎士団そのものが

裏の世界の中心となっていることです

そして、最後の内容はストーリーです

幼いころ、親を殺された一氏は
騎士団に入ること

その殺したやつを倒すというのが
これからの話といっても良いでしょう

そのため、次回は

時を越えて

一氏が親を殺された時代の
10年前にいく話です!!

ぜひ見てください!!

終わり!!

作者雑談 未公開キャラなどの紹介（後書き）

宜しくお願いします

第七話 過去編 Time Bell (タイムベル) (前書き)

時空を超えようぜ!!!!!!

第七話 過去編 Time Bell（タイムベル）

ガバ……！！

「……………」

んー、あれ？

そっぴや…俺なんで寝てるんだ…

く ■それはさかのぼる事■ く

「ほれ、これ持ってけ」

「なんだ？この剣」

「お前の能力を安定させる刀だ」

「はーそうか…」

「そっぴやまだ聞いてないが、どうやって過去に行くんだ？」

「この鍵を使え」

ん？なんだこの古ぼけた鍵は…

「で、これを？どう使った？」

「お前の部屋のドアから行ける」

「なるほどねー
分かった分かった」

「最後に一つ、これはお前だけでやる仕事だ」

「セルシイは行かなくてよろしい」

「っは…」

「それとな…くれぐれもむやみに能力使ったんじゃねえぞ」

「お…おう」

「そして現在■」

「さて…早速いくか…な」

俺はもらった刀を早速ズボンにつけた
思ったよりも軽く
振り回せることが出来そうだった

「鍵をドアに……」

ガチャ

ギ
ユ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ン
ン
ン

「うあああああああああああああ」

みるみると吸い込まれる一氏……

そして、
気が付くと……

「うっ…この部屋は…」

っ
は
！

この家は俺の家！！

てことは

「母さん！父さん！！！」

「へ？…ギャー！！泥棒」

「え…」

「アーしまったー！！！」

十年前の俺は

母さんたちはしらねえんだった！！！」

「ごめんなさいでしター！！！！！」

「ったく…でもさっきの人、一氏にそっくりだったわ…」

「そうだったな…」

「…はぁー…どうするか…せつかく過去に来たわいいものの、どうすつかー」

そう一氏がしょぼくれながら商店街を歩いていると

！！！！

「あいつは……」

嘘だろ……

「まちやがれええええええ！！！！」

く ■そして ■く

「もう逃げられねえぞ……ハアハア……偽者やろう！！！！」

「っチ！だったら戦うまでだな」

「上等だ！！！！」

ガチャン！！！！（刀を抜く音）

「つりやあああああああああ」

偽者の一氏が阿修羅になる

「な…俺の能力もそっくりそのまんまか…!!」

一氏も阿修羅になろうとするが…

「あれ…な…嘘だろ!? 能力が…!!」

こんな大事な場面でええええええ

(クソ…生身でいくしか…)

「くらえ!! 阿修羅秘伝奥義…」

な…何がくる!?

「てんりゅうざんげき
天龍斬撃」

ズシャアアアアアアアアアアア

「グアー…!!!!」

ドシャ…

「そんなもんか、偽者の俺は…」

タッタッタッタ…

偽者は走り去っていた…

ポチヨン…

ザーザーザーザー（雨の音）

「く…クソ…」

おい

（誰だ…？）

おい…

「ガバ…!!」

「っ…」

「無理スナナよ、兄さんよお」

え…兄さん？

「ここは？」

「ここは、俺の家、東夷家」

「そして俺は東夷 一氏だ！」

終わり！！！！

第七話 過去編 Time Bell (タイムベル) (後書き)

あひゃひゃひゃ

第八話 もう一人の影（前書き）

絵が描ける人がうらやましいですわー
僕はペー・ーマンの・イしか描けません…

第八話 もう一人の影

目覚めた俺

だが、いきなりあんなことを言われてわ
話の内容が分からないであろうに…

だが、俺はこいつに教えなければ…！！！！

「俺の刀は？」

「そっぴや兄さん、名前は？」

刀はスルーかよ

まあいいか…そんなんよりも…

「…いいか？信じてくれよ？」

「お…おう…」

「俺は東夷一氏、つまりお前だ」

「…え？」

「俺は10年後から来た、つまり、未来から」

「みらい…？」

驚く十年前の俺

無理もないだろ

7歳の俺では理解は無理

「でも、なんで兄さんはこんなところに？」

「今日…おそらくお前の親は殺される」

「な…なに言ってるんだよ兄さん」

「ホントの事だ」

「俺は、その俺の親を殺したやつを、殺しに来た…」

ガチャ

「刀…返してもらっぜ」

「兄さん…言ってる意味が…」

「安心しろ…必ず親は殺させねえから…」

ボタン（ドアの音）

ザーザーザー

「くっそ、雨で見つけにくい…」

さすがに、こんなどしゃ降りじゃあ
見つけにくいな…

一氏は町のすみずみまで付いたあげく
ついた所が家の前の公園

バチャン！！！

「はあはあ…とうとうみつけたあ！！！！！」

「…またか」

「お前が俺の親を殺したんだろ！！！」

「言われてみれば…そうだな」

ガチャン！！！！

「阿修羅！！！！！！」（本物の一氏です）

「ふ…面白い…」

「うおおおおおおお！！！！！」

「つりやああああああ！！！」

カンカン！！！！（刀のぶつかり音）

「阿修羅秘伝奥義…天龍斬撃！！」

ズシャアアアアア！！！！

ものすごい龍の斬撃を、一氏が阿修羅の腕と刀で受け止める

「ズリヤああア！！！」

そこから、一氏がものすごいスピードで走り
偽者に大振りで刀を当てるが
無我夢中の一氏の攻撃が
はね返されていく…

「っクソ！！！！」

「話にならねえ」

「お前は…弱い…だからお前の親は殺された！！！！！」

（…な！！！！！！）

「ふざけるな…ふざけんじゃ…」

「ああん？」

「ざけんじゃねえぞお！！！！このクソがあアアアアア！！！！！！」

一氏の周りを、闇がつつむ

「グオオオオオオオオオ！！！！」

「…な…」

一氏の体が、闇の光で全身を包まれた…

「グウアアアアアアア！！！！」

さつきとは桁違いのスピードと
パワーで、偽者の刀をいとも簡単に割る

バリーン！！！！！！

「ぐお…」

「ゲエアアアアアア！！！！」

ブシャ！！！！！！

偽者の一氏の体に、剣が勢いよく刺さる
そのまま、剣は抜けず倒れた

「ぐおおおおお…うおおおおお！！！！！！」

もはや正気を失ってしまった一氏

「ぐ…グアアアアアアアアアアアア！！！！！！」

徐々に体から闇の光が消えていく

「ハア…ハア…ハア…ハア…」

「！！！！！！」

「おい…大丈夫か？」

腹を貫いた刀は、
静かに血を取っているかのようにだった…

「ゴフ…よく聞け…」

「お前の親を殺したのは…俺…俺はお前と同じの10年後から来たお前だ…」

「な…」

「俺はお前と同じように親を殺した奴を見つけるために…ゴフ」

「大丈夫か！！」

だが、偽者の一氏の命もわずかだった…

「いいか…元は俺とお前は一つの存在だった…」

「だけど…これからさらに7年前…俺が生まれたとき二つの人格が…生まれた」

「その人格が俺とお前…つまり、お前の阿修羅が不安定だったのも…」

「じゃあ、俺がさつき闇に取り込まれたときに、お前は…」

「そう…俺は使えなかった…」

「いいか…これはお前にとって、俺にとっての約束だ…」

「この阿修羅の能力は…ゴフ！！…もともと魔王の能力の一つだった…」

「え！？」

「魔王シグナスは、魔王に体を入れ替えられた…」

「魔王を倒してくれ…元は魔王が俺たちにこんな力をつけたんだ…」

「魔王を倒せば…ゴフ！！過去が…ゴフ！！変わるはずだ…」

「後は…頼む…」

死んだ一氏の手が下がる…
同時に一氏が涙をながす…

「ああ…ぜってえ約束守るから…」

死んだ一氏の体が光となり、
折れた刀と、一氏の刀の中に光が
吸収される…

ガチャン！！！！

「待ってる魔王…」

必ず俺が魔王を倒す！！！！

ENDだよ！！！！

第八話 もう一人の影（後書き）

長くしすぎてしまった…

長すぎてごめんなさい

内容もそう大して分からなかったと思います
給食の戦争もありますので

見ていただければうれしいです

次の話は、魔王と戦う前に修行？

+ 新しい仲間、さらに称号？

とでも考えておきますか

だ・い・９・話 風呂慶介登場（前書き）

PC故障していました。

ミス更新しませんでした！！！！

ついでに

絵をかけるようになりたいです！！！！（アナログで

がんばりたいです…

だ・い・９・話 風呂慶介登場

〈学校〉

先生「はい、転校生を紹介するよー」

いきなりかよっ
気にするな

「この子がセルシィで…」

ブハ！！！！

「こつちが、風呂慶介くんだね」

男子の転校生はともかく
なんであいつが居るんだー！！！！！！！！

「一氏の妹です」

生徒「なぬ！」

「一氏てめえー！！！！！！」

ちよつとまでー！！！！

誤解だから、殴るのはかんべ…

ボコスカ
ボコボコ

慶介（あの刀…）

…

…

「…で、まああれだがセルシィ…」

「？」

「なんでお前が転校生としているんだよお！！！！！！！！」

怒り爆発の俺

「いやー、学校で何しているのか気になってねー」

いや、お前も学校行ってたんじゃないの？

「でなー、ともかく、あんま無駄なことを言うなよ？」

「ちよつと君」

「あ！？あ……すまない慶介」

「いいんですよ、ところで、その刀って…」

「ああー！！！！気にするな！！！！」

実は…

それは三日前

俺が騎士団へたまたま訪れたときだった

「おーいシグナス、まだ聞いてなかったけどよー」

「何だ？」

「この刀って何？」

「それは、月光^{つきひかり}ってゆう刀だ」

「お前には、能力を安定させるためにちょうどよかったんだよ」

「それとな…お前は、阿修羅の能力が覚醒したから…」

「つぎ抜いたら、悪魔になるぞ」

へ？

ちよいまち

俺はそんなことなんて…

「きてないんだけど!!!」

「お前、もう一人の自分と戦ったとき、刀に光が集まっただろ？」

「あいつはもともと悪魔だったんだから」

「だから、もともとの能力のある刀に、悪魔の力が入り込んだんだよ」

「だから…ほれ」

ガチャ

「これは？」

「ただの刀だよ、それでのりきれ」

「そしてな、お前はまだちゃんと称号を受け取ってねえ」

「だから試験をつけて称号をもらわねえと、魔王を倒すどころか、無理な状況になるぞ」

「それに、もしつき

「え————!!!!!!」

とゆうことである

「いいんだ、気にすんなー！！！！」

(怪しい…)

夕方

「今日は一日中疲れたなあー…」

「一氏君！！！！悪魔の気配がするわよ」

「まじか！！！！！」

ぐおおおおおおおお

「ポイズンゾンビか！！！！！」

ポイズンゾンビの説明は…編集で絵を張るかもしれないから
そのときで……!

「その右腕は硬く、毒の力があるって、先生から聞いたぞ……!」

「一氏君で倒してね」

「おい……!!何一人だけ気に隠れてやがるんだ……!!」

「グオオオオオオオ……!!」

「ちょ……おま……!!」

我に大いなる力を

我の拳に力を……

慶介「パワーアーム……!!」

ボコ……!!……!!……!!……!!……!!……!!……!!……!!……!!

…

戦闘終了

「慶介つよいなあ…」

「俺も…騎士団に入れてくれ……！」

「え？セルシィ「よろこんで」

「おまー……！」

「ありがとう……！セルシィ……！」

ぬお…

ややこしいことになってきやがった…

だ・い・9・話 風呂慶介登場（後書き）

作業なんとか成功

第十話 騎士団訓練 Aブロック前編（前書き）

内容どっからだっけ？

第十話 騎士団訓練 Aブロック前編

騎士団くくくくくくく

「で…ここが試験場…？てゆーかここ王の間じゃん」
他に来ているようだが…

70人…多いな！！

これからいつらとやっていくのかよ…

「えー、試験のルールを説明します」

「説明者は私、セルシイが教えます」

「試験は一对一のサシ勝負」

「試験はA、B、C、Dのブロックに分かれ、それぞれ4人が試験合格者となります」

たったの四人！？

「それでは健闘を祈ります、戦うときは放送しますので…」

一同（えーーーー！！！！）

一氏はA

風呂はB

まずはAブロックから

一戦目

一氏勝利

二戦目

一氏勝利

三戦目

一氏勝利

ここまでは楽勝だったが

準決勝

一氏VS氷の騎士 アスピガ

レディ…ファイト

合図が響く

同時に一氏が刀を抜く
が

「おそイ!!」

アスピガが氷を出し
刀の鞘部分を凍らせた

これでは刀を抜くことは出来ない

「く、クソ!!」

「終わりだ…」

巨大な槍が出てくる

「グランドアイスピア!!」

ヒュー

落ちてくる氷の槍

どうする！？

第十話 騎士団訓練 Aブロック前編（後書き）

どうなるのか!?

第十一話 騎士団訓練 Aブロック後編（前書き）

二ヶ月ぶりに更新…

あやうく、小説を忘れるところでしたね

第十一話 騎士団訓練 Aブロック後編

~~~~~待機室~~~~~

ここはBブロック 待機室

ガヤガヤ

とてもさわがしい…

「おい、その坊主」

一人、顔に傷のある人（奴）が風呂に話かける  
髪は金色で

服装は…黒いズボンであとは体は包帯巻き  
靴は履いていなかった

「何ですか」

「くれぐれも落ちんじゃねえぞ」

「そんなこと言われなくても、分かってますよ、おじさん」

…

「っち」

少しイラツクおじさん

~~~~~一方Aブロック~~~~~

「グランドアイスピア!!」

巨大な氷の槍が落ちてくる

が…

ドガン!!!!!!!!!!

フィールドは煙で覆われる

「っふ、これで終わり」

が!!

「あぶねー!!!危うく死ぬところだった…」

！？

なぜた、当てたはずだぞ！！

と思っていると審判が

「アスピガ選手、場外」

「あ…」

アスピガは槍を落とす瞬間
下にきずかず、そのまま場外になった

「アホだな…あいつ…」

と思いながら

時間は経ちいよいよ決勝戦へ

相手は…

？？？どうした！！

早く出てきてくれたまえ！！！！

とここでまたも審判の声が

「えーすいませんが、対戦者は突然出血により、失格となりました」

えー！！！！！

そりゃ無いって！！！！

こんな大事なときに…

こうして、一氏はAブロック優勝者になった…

続く！！

第十一話 騎士団訓練 Aブロック後編（後書き）

次回！

Bブロックの風呂威は、強敵と当たってしまった！！
どうなるか！

Bブロック試験 前編

第12話 Bブロック試験 前編（前書き）

新年あけましておめでとうございます

この作品もずいぶん適当に略

そんななんやで話を続けていきましよう

この作品を書く気力を…

第12話 Bブロック試験 前編

ゲートが開かれ

歓声が響く

ゲートから出て、フィールドに出た風呂威は落ち着きながらストレッチをする

今はBブロックの試験中である

そして、ストレッチが終わるころになると

むこうのゲートから来たのが

Bの待機室にいた

金髪の傷男だった

「え…あのおっさんと?」

傷の男（目に傷）は刀を構え

戦闘の準備をしていた

ちなみにフィールドは縦と横が20メートルと決まっており
高さは3メートルほどである

風呂威も準備をする

風呂威の服装は白いTシャツにミリタリーズボン、黒いナックルゲ
ローブをつけ

いかにも戦いの構えをした

いよいよ始まる

レディ…ファイト…!

同時に風呂威が傷の男に向かって猛ダッシュをする

そして、構えた右腕を当てようとしたが

「いない…?」

だがないのではない

傷の男は瞬時に上えととび

移動したのだ

そして空中で刀を構える

「しまっ…」

だが風呂威は遅かった

きずいたときには、もう相手からの攻撃があつた

「無限一閃」

相手が刀を鞘から出すと

いくつもの斬撃が風呂威に向かってくる

とっさによけようとしたが

左右からも斬撃が来る

ガッ！！！！！！

風呂威の体に当たった瞬間
音を立て

体を斬撃がきりつけた

だが痛みは無かった

血も出なかった

だが、体の表面にはアザがたくさんあった

「いってー！！！！」

第12話 Bブロック試験 前編（後書き）

どうなるのか!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4191t/>

『God The Road』

2012年1月11日23時47分発行